

令和 7 年度使用西多摩地区町村立学校教科用図書＜中学校＞ 選定教科書とその理由

西多摩地区町村立学校教科用図書採択協議会

	外国語（開隆堂出版）	特別の教科 道徳（日本文教出版）
内 容	①生徒の活動や題材は、音声から学習内容の導入を行う。1 単元に 2, 3 回既習事項を用いた即興での活動等により現実的でよりリアルな活動ができる。各単元末に向けて系統的に活動を積み上げている。 ②英文の内容は、単文から重文・複文へ、具体的な内容から抽象的な内容へと配列されており、生徒の成長に對して見通しをもった構成と内容となっている。 ③第 1 学年導入時の内容(動詞関係)は、（【Program1, 2】各 1 時間扱い） 1) I'm/You are 2) Are you/Where 3) I have/ don't 4) Do you/When	①複数の教材で連続して学びテーマについて考えを深めるユニット学習が、「いじめと向き合う」「よりよい社会を考える」の 2 種類設定されている。 ②「多様性」については、第 1 学年で発達特性や性、第 3 学年で障がい者の社会参画に関する教材がある。 ③「安全・防災」についての教材は全学年である。第 1・第 2 学年で「阪神・淡路大震災」、第 2・第 3 学年で「東日本大震災」、3 学年で津波に関する教材が収録されている。 ④「いじめ」については、全学年でユニットの最初に扉のページを設け、第 1 学年で 6 本、第 2 学年で 5 本、第 3 学年で 4 本の教材と「視野をひろげて」というコーナーがある。第 1 学年でいじめの状況や互いの立場と気持ち、友情、第 2 学年で状況や立場を変えて考えること、第 3 学年で人との関わり方について考えさせる教材がある。 ⑤「情報モラル」については、全学年で SNS に関する教材があり、第 3 学年には AI に関する教材もある。 ⑥生徒の主体的な学習を促すために、全ての教材のタイトルの右上に学びのキーワードを示し、最後の「考えてみよう」「自分にプラスワン」で中心発問例などがある。
構成・分量	①学習内容の構成 ・第 1 学年（be 動詞、一般動詞、複数形、命令文、助動詞 can、3 人称単数現在形、代名詞、疑問詞、there is 構文、現在進行形、過去形 ） ・第 2 学年（未来表現、動名詞、接続詞、不定詞、助動詞、SVOC、SVOO、比較表現、受け身） ・第 3 学年（現在完了、後置修飾、間接疑問文、関係代名詞、仮定法 ） 特徴としては、【Tuning in】【Coffee break】など生徒に身近な話題が組み込まれている。 ②単元に関しては、4 技能 5 領域の言語活動をバランスよく配置し、5 つのアイコンで領域を分かりやすく示している。 ③語彙に関しては、小学校の既習後を 606 語に設定し、中学校の新出語には 1644 語が設定されている。	①目次と内容項目別教材一覧表がある。 ②内容項目別の分量は、全学年共通で「主として自分自身に関すること」が 7、「主として人との関わりに関すること」が 7、「主として集団や社会との関わりに関すること」が第 1・第 2 学年 14、第 3 学年 15、「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」が第 1・第 2 学年 8、第 3 学年 7 となっている。 ③ページ数は第 1 学年 176 ページ、第 2 学年 184 ページ、第 3 学年 192 ページである。 ④教材の数は全学年 35 である。ただし第 1・第 2 学年はミニ教材を合わせると 36 である。 ⑤冒頭に道徳科での学びを解説したページがある。 ⑥付属として別冊ノートに学習の記録を記入するページがある。 ⑦別冊ノートが付いている。
表記・表現	①各課の目的・目標は、各課の扉にゴールの確認が日本語で表記され、各ページにも達成度を自己評価できる表記がある。巻末の CAN-DO リストでは、5 領域別に単元ごとに自己評価ができる。 ②音読の回数表記は、各 Program ページの New Words 欄下部にある。 ③小学校で習った単語の表記は、各ページに「小学校で学んだ単語」がある。巻末「単語と熟語」では、単語の前にマークを付けて表記されている。	①文字の大きさは、11 ポイントである。 ②各資料タイトルページは、内容項目の視点ごとに色分けされている。 ③各資料のタイトルページに、内容項目のマークと作者写真、登場人物のイラストがある。 ④資料写真数は、第 1 学年 77 (10) 第 2 学年 103 (12) 第 3 学年 100 (14) である。 ⑤イメージイラスト数は第 1 学年 181 (25) 第 2 学年 152 (23) 第 3 学年 150 (19) である。 ⑥その他の資料（表・グラフ・図・地図等）数は、第 1 学年 12 (0)、第 2 学年 15 (0)、第 3 学年 15 (0) である。※ () 内は別冊ノートの数を表している。 ⑦文字のみのページの割合は、第 1 学年 3%、第 2 学年 5%、第 3 学年 9%である。 ⑧各ページの下に難しい語句の意味の説明や行数表記がある。また、読みにくい漢字には振り仮名が振っている。
使用上の便宜	①サイズは A4 版である。 ②単元以外のページは、学期ごとにパフォーマンス活動【Our Project】がある。学期 2 回程度場面に応じたコミュニケーション活動【Power-Up】がある。Reading が第 2 学年・第 3 学年で学期ごとにある。 ③巻末資料は音声面・語彙面での補足的な内容が多い。第 1 学年のみ、Action Card が添付されている。辞書ページでは、小学校で既習の単語も中学校で初出の単語も同様に扱っている。 ④二次元コードは、本文の通し音声を聞くことができる。【Scenes】や【Grammar Points】の動画を見ることで、各活動での多様な学習が可能となる。単語学習アプリで新出単語、熟語の定着が高められる。	①内容項目一つにつき、1～3 時間の内容があり、各学年で軽重が異なる。年間 35 時間の教材一覧表があり、他教科との関連が示されている。 ②全学年に『道徳ノート』が付属しており、各教材に生徒の考えを記録し、振り返ることのできる記入欄と学期ごとの振り返り記入欄がある。 ③中学生が直面する題材で、道徳と他教科をつなげるコラムがある。 ④UD フォント使用している。 ⑤デジタルコンテンツは、教材ごとに内容が異なり、朗読音声、ワークシート、インタビュー映像、画像資料、関連資料などがある。また、道具箱に心情メーターなどの思考ツールがデジタルで作成できるコンテンツが収録されている。